

SDGs (持続可能な開発目標)と余暇の充実

SDGs (Sustainable Development Goals) は 2015 年に国連が定めた国際社会共通の目標です。それは地球上に生きるあらゆる人を誰一人として取り残すことのないように、先進国と途上国が一丸となって達成すべき目標として掲げられました。それは①貧困をなくそう、②飢餓をゼロに、という生きるための最も基本的な課題をはじめとする次の 17 項目からなっています。私たちはそれに全ての人の余暇の獲得と充実を目指す 18 番目の目標を付け加えることを提案します。

●なぜ「余暇」か

余暇というと「余った暇」というとらえ方しかできず、人生における余計なものを見てしまう人がこの国には少なくありません。しかし、聖書にあるように「人はパンのみにて生きるにあらず」。飢えを満たし貧しさから抜け出すと同時に、心の豊かさを合わせ持つことが大切です。余暇は心を養う土壌なのです。

●余暇は教育と文化の土台

余暇とは「余裕の時」であり、人間が人間らしく生きるための「文化」を育むために不可欠の時間です。義務や強制から抜け出した自由な時間があるこそ、人は知恵を磨き、新たな発見や発明を成し遂げることができます。

●労働至上の価値観を見直す

やみくもに働いてモノを増やし続ければ有限の資源とエネルギーを浪費し、持続可能な発展は不可能です。今こそこれまでのような働き方を見直し、余暇の価値を前に出したゆとりある生活設計を進めなくてはなりません。

●余暇が地域を育てる

自由な時間の自由な人間交流が住みよいまちを作る原動力です。権力や利害に支配されない余暇のひと時の交遊こそが、平等で平和な人間関係を生み出してゆけるのです。(2019年9月 日本余暇会)

